

きこえ・ことば

2024年11月
小学部自立活動担当

保護者のみなさま、いつも発音の宿題のチェックや、お子さんとの取り組みなど、ご協力くださりありがとうございます。2学期の「きこえ・ことば」をお届けします。お子さんと一緒に読みながら話し合っただけであればありがたいです。

リスニング エフォート



ある大学の先生の講演をオンデマンドで聞いたときに、初めて知ったことばが、「リスニング エフォート」ということばです。「リスニング エフォートとは、聴覚情報を理解する際、妨害要因を乗り越えるために、意図的に心的リソースを配分すること」と解説しておられました。妨害要因には、「聴覚障害、ノイズ、疲れ」も含まれるそうです。ろう学校の子どもたちは、た

だでさえ、聞こえにくさを抱えているのに、雑音の多い校庭での体育や、集団で行われる朝の集まりなどでは、意図的に聞くことに大きなエネルギーを注いでいるということになります。特に後ろの席で聞いている高学年の子どもたちにとっては、前に座っている多くの友達の後ろ姿も、妨害要因になっていることが想像できます。こうして考えてみると、聴覚に障害のあるお子さんは、「日常的にわかりづらい環境の中でも、聞くためのエネルギーを、場に応じて意図的に配分しながら、がんばって聞いている」ということを改めて認識しました。

「よく見て」「よく聞いて」学校の中では、何度もこのことばが繰り返されます。そのたびに、子どもたちは、がんばって聞こうとしているのです。このように考えていくと、ろう学校の子どもに話をする場面では、なるべく妨害要因を減らす環境を作らなくてはなりません。静かな環境を作る・同時に2人以上の人が話すことのないよう、話し合いのルールを徹底する・話すときの相手との距離や話す声の大きさ、発音、教室や話し手の口元の明るさ、音韻サインの適切さ、子どもたちの疲れ具合にも注意を払うことを再確認しながら授業を進めていきたいと思えます。

また、リスニング エフォートは、課題の難易度やモチベーションに左右されることが外国の研究で明らかになっています。単純な課題では、聞くためのエフォート（集中力・努力・エネルギー）は少なく済みます。難しい課題の場合には、多大なエフォートを要するため、疲れやすくなるということです。「がんばって聞くことが当たり前になっている」

目の前の子どもたちのリスニング エフォートを想像し、子どもたちが毎日を快適に生活できるように、ご家庭と連携していきたいと思います。

発音を体感し、ことばの学びを深める

10月17日・18日、全日本聾教育研究大会（東京大会）に参加し、18日に「発音・発語学習」の実践発表を行ないました。カ行音・サ行音・タ行音を発音するとき、口の中では、どのようなことが起こっているのか（喉や唇の力加減や息の流れ、唾の混じり方・飛び方など）を言語化し、ことばのイメージ（語感）との関係を確認する学習を、今年度は小学部高学年の子どもたちと中学部3年生の生徒たちと進めています。

「か」と言おうとするときには、舌の奥の方を持ち上げて上あごに接触させます。舌の筋肉を使わないと出せない音です。舌の前の方は、上あごには接触しないので、他の音にくらべて乾いた感じがする音です。「か」の音のつくことばには、「からから」「かわく」「かんそう」など、乾いた感じを表すことばがあります。



では、「た」と言おうとするときは、どうでしょうか。「か」とは逆に、舌の前の方を上あごに接触させます。舌の表面は濡れていますが、上あごも濡れていますね。舌の前の方を上あごにぺたっと接触させることにより、さらに濡れた感じがする音です。「たらたら」「たれる」カ行音と比べると、濡れた感じがしませんか。

一方、「さ」を言おうとするときには、息を上の前歯の裏をこするようにして出します。口の中に爽やかな風が吹く感じがする音です。「さらさら」「そうじ」「せいけつ」



「すずしい」どれも爽やかさ・涼やかさを感じることばですね。

このように、発音するときの体感が、ことばの意味やイメージ（語感）と結びつきやすいことばは、話を聞いたり、文章を読んだりするだけでも、共感しやすいことばと言えるのではないかと考えます。

学習後の子どもの感想の一部を紹介します。

- ・さ行音を言うと、とても気持ちいいです。
- ・主に「か」を言うと、かわいている感じがしました。
- ・「たっぷり」などを言うときは、つばが増えるような気がします。

ご家庭でも、お子さんと一緒に発音を体感してみませんか。